

花と彩「2022」

1. はじめに

園芸アカデミーに入学する前から花を生産することに興味があり、専攻のコース決めでは花き生産コースか花き装飾コースでとても悩んだ。花き装飾コースで授業を受けている中で、花をデザインする楽しさや答えがない面白さを知り花き装飾コースを選択した。そして、インターンシップでは、花の配達やウェディングブーケをお届けに行く中で花を介して人と繋がる喜びを知った。そして将来フローリストとして人々の想いを花で創造できる人になりたいと思うようになり花屋への就職を決めた。内定をいただいている生花店では店舗での花束制作や生けこみなどの業務がある。卒業制作ではテーマを決めて花束と生けこみを制作し、就職後すぐに即戦力となれるようイメージを形にする装飾技術の向上を目指した。また、花束制作ではこれまであまり習得しきれていない色彩の理解を深めることにフォーカスして「花と彩」2022に取り組んだ。

2. 制作作品

- (1)「初恋ラブレター」
- (2)「フランボワーズ」
- (3)「韋駄天台風」
- (4)「ヘルシンキの森」

3. おわりに

花束を制作する経験も知識も足りない中で、卒業制作に取り組んだ。一つ目の花束はとにかく何もわからなくて、とりあえずという気持ちで制作してしまった。「花束に入れる一つ一つの花すべてに意味がある」とアドバイスをいただき、手直しをしていただいた花束を見てその言葉を実感した。制作を進めていく中で、特に花の入れ方、色の組み合わせ方について理解することができた。埋める花、飛ばす花のメリハリを付けて入れることで、花に役割を持たせること。色の組み合わせ次第で微妙な雰囲気の違いを表現できることを知った。また、たくさんの花を扱ううちに花の特徴に気づくことができた。一番苦戦したことは、イメージ通りの花束を制作することであった。大まかなイメージだけで制作をしまうと、花に意味を持たせることができず花の魅力を引き出すことができなくなる。また、それに伴って、花束に付けるネーミングを考えるのもとても時間を費やした。イメージを言葉に表す難しさを痛感した。そして、あまり重要視することができなかったが、一つの花束にかかる合計金額もとても大切である。制作では全体的に合計額 2,500 円になるようにしたが、これを実際に販売すると 5,000 円もしくはそれ以上となる。その 5,000 円に相当する花束を制作するにはどの花を入れるべきなのかもっと吟味する必要があると実感した。

卒業制作を通して、想像を形にする難しさ、彩りの奥深さに気づくことができ、同時にこれらの更なる高みを目指す必要性を感じた。今後は実際に働きながら、制作を活かすこと、追及すること、そして、新たな壁を乗り越えて人々に想いを乗せた花を贈れるフローリストになりたいと思う。

